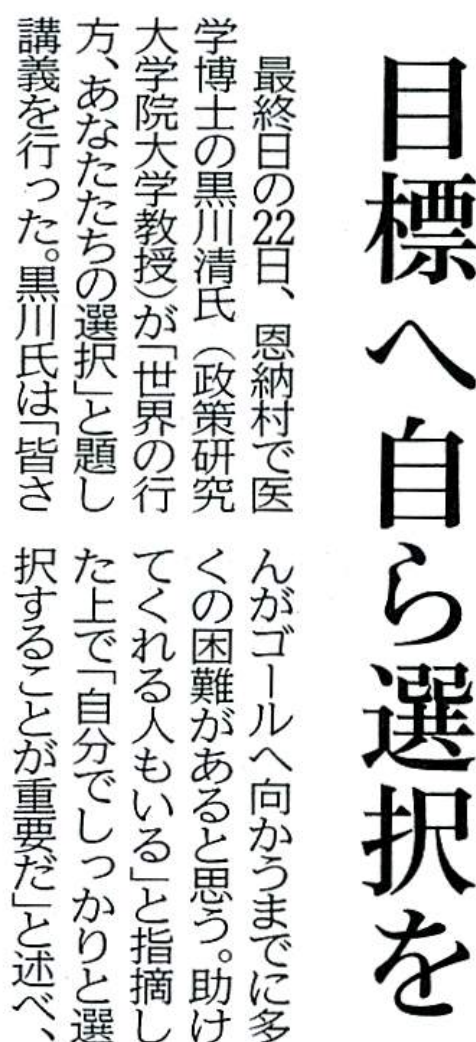




黒川清氏講義

黒川清氏講義
目標達成。自らが道筋を描くことこそ重要だ。

黒川氏は参加した国の高校生らに向け、周囲からの助言や支援の重要性を説きつゝ、一つ「例えは、先が言うことは正しいし、いは限らない。目の直感を信じて進む」

「周知の如き方途を辿らずに、スマートフォンに操作し、集中する若者たちの写真を見せながら、これはコミュニケーションの一つしかない。直接口で、対面して話さず、このようにして話さうとするのが大切」と説いた。

松本さん、さんぽい興南と高一年生は目を終え、いう

「人を人もするが、巨企業に日本人は日本のことを嫌いで、もうかへ、交流して仲良くなった。こういう企画を続けてほしい」と語った。オリエント・メディアリザンズ16（19）インドネシア人は、工知能でつづろボロボロ、工知能でも活用できれば高一年生は目を終え、いうと聞いたと記した。

プログラム構想参画の黒川氏に聞く

黒川清教授は黒川プログラムの前身である「アジア青年の家」の構想段階からかかわり、毎年講演会に参加している。黒川プログラムの意義などを話つてもいい。

◆

アジス、日本の15歳くらい若い若者たちが過間、沖縄でたまたま集つて、それだけでとても良い経験だ。うちもたまたま離島に行つて自然に融け込んで感動し、民泊をして「黒川プログラムで自分らしくて愛

黒川清教授は黒川プログラムの前身である「アジア青年の家」の構想段階からかかわり、毎年講演会に参加している。黒川プログラムの意義などを話つてもいい。

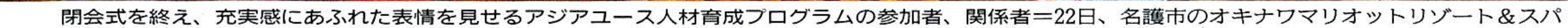
◆

アジス、日本の15歳くらい若い若者たちが過間、沖縄でたまたま集つて、それだけでとても良い経験だ。うちもたまたま離島に行つて自然に融け込んで感動し、民泊をして「黒川プログラムで自分らしくて愛

きた」と感想を話してくれ、読書さだけではない、読書を通して体験したいのだ。さうして議論を通じて、この国も水や環境の問題を抱え、教育が大切というところ共通しているのに気づき、偏見がなくなることにつながる。過去に参加した人たちが、最終的にかかわるべき本質がもたらされる。黒川プログラムの自分らしくて愛

を思い、「それなら自分らしくなりたい」と自分で調べて進歩したという報告をする。このプログラムが、自分が何を学びたいのか気づき、かかわりたいのかあるとき、その国のある若いときにこそ必要となる体験だ。

毎回、最初が最後の目印加している。最後の成果報告は感動的な話だ。議論を通じて、過程で環境を越えて「これ」になる。その成果をまとめるのは、このとき、これがこの国の教育の姿に思つて



アジアユース人材育成プログラム

第3セッション

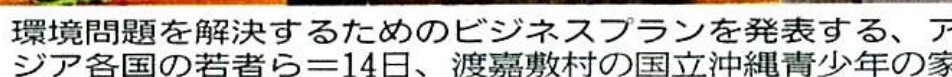
閉会式

開会式その日は、語り部のオキ
ワマワヨ、トリプット&パ
で開かれた。18日間取り組み
を振り返り、ビジネスラン
と紹介、アート作品の展示、演劇
と歌の形で、参加者たちが成果
報告を行った。

ビジネスランは「ブリッジ
・ビトウズン・ポーターズ」
というウェブサイトを立ち上
げ、地球環境の問題解決のため、世界の高校生が自見
を交換したり、学んでいる
場を提供する「ことを提案し」、
発表者の一人中道理「君」扮
木県「宇都宮高」は、議論
の中で「課題解決には「ミニニ
ゲーションが大切だと感じた」
自分の手でできることから
やつていきたい」とサイトの計画

ポスターに描いた
ポトで興奮越えていふ姿を
にして紹介、ビョウ・オス
U「題した参加者オスル
の歌には、仲間のおかしな
できたこへの感謝を込めた。
会場には手形と張り終る地球
を描いた大きなポスター」のほ
か、この展示などことをめ
た大きな姿を表現した。世界や
持続可能な未来を表現した。
開会式終了後、参加者たちは
涙を流し抱きあへたり、輪にな
って歌ったしなから今後もた
18日間を振り返り、今後とも
がりを持つことを誓い合った。

第2セッション
中間発表会



沖縄の文化に触れる
高田施設長講義

15日の「沖繩の古民家と沖繩の義の後、参加者は、この国内
 に来家畜」と題した講義は、沖 された「沖繩の古民家」を訪れ、復
 縄こどもの国の高田勝徳施設が、 高田施設長は沖繩の古民家の
 縄古民家と在来家畜の概要や特徴 などを図面や写真で説明した。講
 くりについて、中国の風水が

ネットワーク構築を

第3セッション
チャンドラール氏講義

アジアの人々がネットワークを作る大切さを語るディリーブ・チャンドララル副学長

植物などから、纈脂を採取して動物の糞と合わせて、糞肥に焼くのが一般的であり、土壌に還元されて窒素と硫酸。四酸化の気体が出て、フーロートは温度が上がるのと、人間の体を構成し家畜が築けるために、先祖が遺した位置が正確にあることとなる。また、具体的な事例を紹介した。

在来家畜については、琉球車馬時代から牛・羊・鶏・豚などが、まさに家畜がいろいろと挙げられていた。その中で、沖縄で重要な役割を果たしている豚について取り上げられた。高田施設では講義の最後に「歴史を学ぶことで、近代化の一面はなく、昔の人々の生活がうかがえる」ということが述べられている。それを基にしたことが来たりてけいこに上った。

G 講演

第1セッション

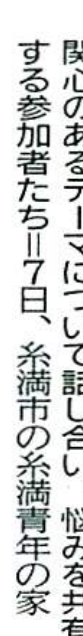
プログラムの開会式は6日、長野県南の沖縄（沖縄）で、シモンセターで行われた。参加した各国の若たちは、これから始まるログラムへの期待に胸膨らませていた。ニール・シェリン・パンチンさん（17）、リン・川は「緊張愛動機、できることに誇り、私たちができることを考えていきたい」とあいいう。沖縄では、高年の下田昭子さんが「みなさんが一緒に協力するところが目標、最後まで楽しんでほしい」と抱負を述べた。

引き継ぎ行われたOP、OGらによる講演では、2008年から12年のプログラムの参加者から、語の体験を振り返り、再びプログラムを終え、再び自身の取組などに、何を英語で報告することになったかと述べた。

の参加者たちは「準備でプログラムを取り組む友を育んでほしい」と、OGらを送った。

09年にオーストラリアから参加したタイム・マヌーラ氏は「海外の文化を身体で感じて、模倣や盗作ではなく、換留したことを報告した。タイム氏は現在、西オーストラリア大学で学んでいる。2010年の経験があり、プログラムにも積極的に参加している」と話した。

11年プログラムにチャム・タと加じた白粉を成成はプログラムを通じて、高校生活に刺激を受けたことを紹介。経後にはワイヘ留学を経験したを語り、OGらを通して、国境を越え、友情をつくることを間接的に決つたなると述べた。



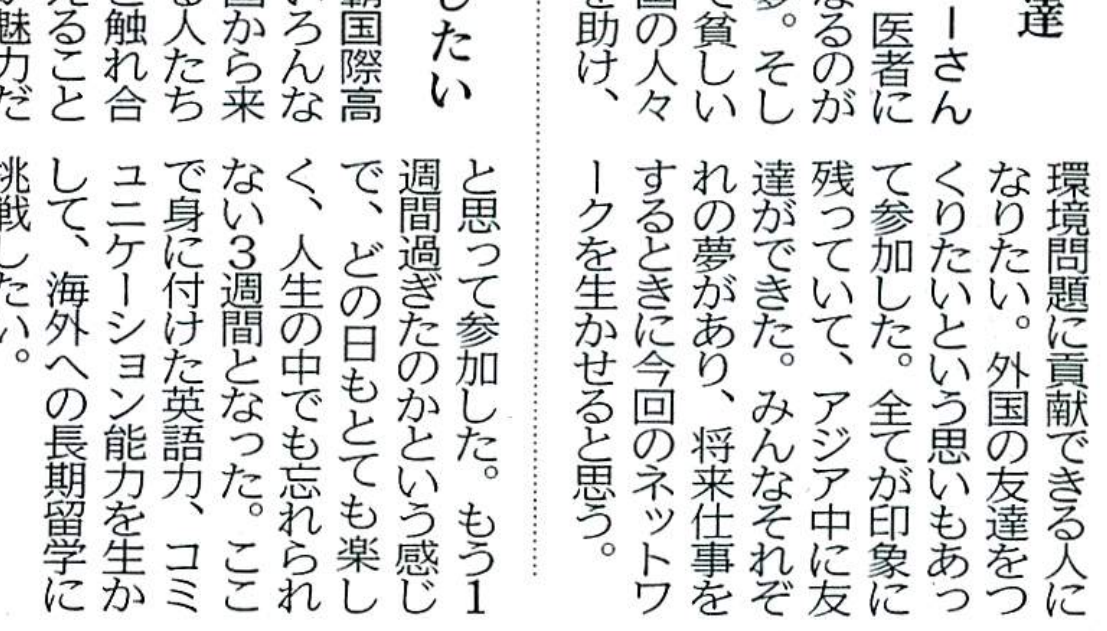
体験談聞き
悩みを共有

六有

生主「さ、振り返りを怠らず、今の経験
 になったと、批判的に返す。今の経験を
 出来たにつなづけている。間違いない
 を恐れず頑張る」と後輩達を励まし
 ました。

ディスカッションに参加した仲嶋
 尚高3年の成績簿を覗き込み「18は
 先輩のアチバイスを聞いて勇気が
 出た。仲間と一緒にいい時間を限ら
 れているので、一緒に学ぶに交流し
 て絆を深めいきたい」と語った。

参加者の声



成長につながる

鎌田康太郎君（青森県、
戸北高3年）
18日間
解決に取り組めるようにな



つ

アジア中に友達

(16)ニニヤンマー 医



て 夢
貧

を助

長期留学挑戦した

2年 アジアのいそ

と触

大鬼